

「前例を超える 前例を創る」のテーマにふさわしい内容でしたか？
最初の早瀬さん、川田さんのクロストークから精神医療のことまで、ずっと目を離せず(耳をはなせず?)でした。「社会や地域を知ること」が本当に重要だと改めて感じました。
まさに前例を越えた当事者である川田龍平さんの生の声と当時の映像をしっかり拝見できた意義は大きかったです。欲を言えば(勝手にすみません・・・)、精神医療のテーマについても当事者の方がクロストークにいて欲しかったと...それは思いました。
第1部、2部ともとても勉強になりました。特に2部「精神医療の闇、その実態に迫る」でのメンバー皆さんのクロストークは圧巻でした。日本の精神医療に闇があり、それを直す道筋が見えていても、実際は容易に変えられない、というのはほんとにどういうことなのでしょう。
第1部、第2部とも充実した内容でした。とくに第2部は、私も挙手して議論に参加したい気持ちにとっても駆られました。筋ジス病棟に20~30年隔離されて、ここでしか生きられないとあきらめている患者さんたち、自閉症で行動障害があり知的障害者施設以外に居場所がないと感じている利用者、親御さんが抱えている問題とまったく同じだと感じました。
第一部では薬害エイズ問題の取り組みをとおして、また、第二部では精神医療問題をとおして、社会を変えていくためには、メディアが当事者や支援者たちの運動を後押しすることで大きな変化が生まれることがとても印象に残りました。
第一部も第二部も、期待通りの、事実も深く広く、検討や分析も深く広く、とても勉強になりました。
自分の思いを共有できた気がしました。
両方とも、充実した内容でした。
これからを考えるのに有用でした。
古くて新しい気づきがたくさんありました。
率直なご意見が多く聞かせて頂きました。
普段会えない記者の方、著者の方、現場の方のお話やお声を直接聞けるのは大変うれしいことでした。前例を超えるには、ひととのつながり、えにしが大切であることを印象深く思いました。ゆきさん、スタッフのみなさま、ありがとうございました。
「えにし」ならではのテーマと切り込み方で、放ってはいけな問題と久しぶりに向き合う機会をいただけました。(最近、食・農・自然相手が生活の中心になっていたため)
未だに、精神科の実態について変わらないという議論でもありましたが、こうした声を重ねることが重要だと思いました。
精神医療を大人数で話し合うイベントは少ない。
精神医療は長い時間をかけても変わらなかったため、「前例を超える 前例を創る」必要が大切であると思います。だからこそ、「前例を超える 前例を創る」のにふさわしいテーマだと思います。
精神医療の闇について、大変深いお話を聞くことができました。考えるきっかけにもなりました。
前半は、「超える・創る」ために政策にどうかかわるかという普遍的な話。後半は精神医療の個別具体的な話。素晴らしい構成でした。
すみません。所用があり、2部から参加させていただきました・精神医療のお話、改めて考えていかなければいけないと思いました。

精神科病院が、日本の医療の信頼性と患者の人権がないがしろにしている事が、シンポジストの方々の発言で浮き彫りになったと思います。ありがとうございました。
精神医療の問題、久しぶりに真正面から取り上げていただいて、勉強になりました。
皆様の真摯な態度が素晴らしかった。
精神保健の記者の皆様が集合したのがよかったです。
遅れての参加になってしまいました。
今、新たな前例が求められていると感じました。
精神医療等問題の多い話題だったため。
まさに、社会にメスを入れるような働きをなさっていらした方々の「生」のお声を拝聴することができたため。
前例をほとんど知らないの、私には超えたかどうかは判断できませんが、創っているのは確かでしょう。
精神病院で何でもない人さえも長期にわたる入院をされているとは、想像を超える内容でした。
聴きたい先生方がお揃いで良かったです。特に精神科病院問題・・・。
メディアの取材の状況をいろいろ聞くことができ新鮮でした。ただ、せっかくの記事や番組になかなか触れることができずにいたと感じています。
精神医療についてのクロストーク、大変重い内容でしたが、大変参考になりました。
精神医療の現場取材の記者さんから提出された課題は、大熊一夫さんのルポの時代から続く、根深い医療界の闇だと思います。人間の人権を奪うことで成り立つ商売が医療と呼ばれることに憤ります。
困難な課題に挑戦され、これからも取り組まれる講師の皆様が素晴らしいです。
『ルポ精神病棟』を読んだ時から、全く変わらないまま半世紀がたってしまったことに、改めて大きなショックを受けています。精神医療の闇を白日のもとに晒し、どうしたらあるべき姿に変えていくことができるのか。これを、次世代に残さないために、真剣に考える機会となりました。
どの方のお話しもとても刺激的で、このようなお話をお聞きする機会をありがとうございました。早瀬さんのお話しから、ストレートに疑問を投げかけたりせずに「気になりました」と言ってしまう自分に気付きました。まずは自分から声を出していこうと思いました。川田さんのお話しに、政治家や議員さんにもっと働きかけていいのだなと思いましたし、最終的には食なのではないか、薬を使わない社会、学校給食は大事、ということ、大いに共感しました。川田さんのご活動を応援していきたいと思いました。「いいね」で社会が分断してしまったということには凶星といいますか、確かにそうだ、と思いとてもドキッとさせられました。青山さん、持丸さんのお話しでは、ああ、この方たちがあのドキュメンタリーを作ってくださったんだ！と感激しました。長すぎた入院、コロナ病棟、死亡退院、どれもとても重要で重大で、大学の院生たちと共に見ました。社会に知ってもらおうということはとても重要で、NHKの力をこのように活用していただけるのはとてもありがたいと思いました。佐藤光展さんのお話しも、もっとお聞きしたいと思いましたが、公演の動画、とてもよかったです。なんで入院してるの？という人たちがたくさんたくさんいることについて医療関係者以外にも知ってもらい、近所で共に暮らしていくような社会になっていくにはどうしたらよいのだろうかと考えています。木原さん：山崎会長へのインタビュー、本当に素晴らしい記事だと思っております。同じ呼吸で過ごすことも大事にいらっしやるとのこと感銘を受けました。風間さん：

<p>東洋経済オンラインの記事、いつもすごいな！と思って読んでおりました。これらの記事を書かれた方のお顔を見て声を聴くことができたこともうれしかったです。大熊一夫さん：ケネディ大統領の一般教書演説のお話し、60年前に！と驚きました。それから60年たっても、まだその実態がある、ということは、本当にこれから頑張らないとすぐ100年たっちゃうなと思いました。今日のみなさんのお話を聞いて、やはり、今の日本の精神科事情は、「精神疾患」となったり精神科に入院したりすると、人間としての当たり前の権利や、当たり前の生活(食生活、楽しみなど)を削られているのだなと感じました。健康的な生活ができる生活費が保証され、本人の選択が保証されることは重要だとあらためて感じました。</p>
<p>いいものはいい、だめなものはだめ、どなたも熱い思いを持っておられ、私も負けてられないと思いました。人には自分を出せる場、機会が必要だと思います。</p>
<p>過去の事例や、新たな実践について。</p>
<p>精神科医療の課題について、まさに、テーマにふさわしいと思いました。</p>
<p>現場の事例を伺うことが出来、自分でもこれから、出来ることをやっていきたいと思えたからです。</p>
<p>最近のNHKに放映されたことで、より身近な問題であった。</p>
<p>身体拘束の話は、とても重いと思いました。私はされた側ですが、筋肉注射をされていて意識がなかったので、あまりYESもNOもなく、そんなものかと思っていました。社事大の講義で、当事者の学生からは自身の経験で悪例(何もしていないのに屈強な看護人が集まって保護室に連れて行き身体拘束をする)を書くのですが、そういう時には腰を据えて返答せなきゃなど、結構、身を切るような思いをしながら、講義に臨んでいました。身体拘束だけではないいろいろな問題のある精神科医療ですが、ちゃんとしている精神科医療もあることを、ちゃんと伝えていきたいとは常に思っています。</p>
<p>1部の対談は残念ながら聞き逃してしまいましたが、2部の異なった経験やご視点をお持ちの6人ジャーナリストの皆さんの鋭く、深いご意見を一堂に会して伺うことができてとても贅沢な時間でした。</p>
<p>精神科の問題をクロストークでは6名のジャーナリストの方々がそれぞれの観点から語られていてそれぞれの観点や問題意識が共有され深められて行ったら精神科の改革に繋がっていくのではと本が出版されるとの事楽しみにしています。</p> <p>また 川田さんの基本に怒りがあるなど 被害当事者として共感出来るお話しが沢山ありましたし 対立はあっても同じ関心を持っている仲間として前に進んで行くとのお話しは 私が目指そうとしている修復的対話に通じるものがありました</p>
<p>自宅看取りの母の介護をしながらの参加で、耳だけの参加になってしまいました。他では聞くことのできない内容でした。本当にありがとうございました。</p>
<p>特に第二部は、過去最高と言ってもいいくらい面白かったです。精神医療業界の外からの視点が必要だなと思いました。いま必要なのは「ニューカマー」が精神医療を見たときの「驚き」ではないかと。「こんなことやってるんだ！」という。</p>
<p>精神科医療の問題点は非常に大切な議論が多いためになりました。</p>
<p>広く知られていない現状を取り上げて、批判的に検討し、国に声を上げていくというプロセスを実践されている皆様のお話をお聞きできました。前例を超え、前例を創っている皆様だと感じました。</p>
<p>「前例を超える 前例を創る」がテーマだったんですね(^初参加だったので意識して聞いていませんでした。でも、大熊一夫さんがかつて果敢に取材された行動は前例を遥かに超えておられましたし、精神科病院の実情は神奈川県大和市で拘束の未亡くなられたニュージーランドの青年のご家族が「日本ははまだ</p>

に中世なのか？」と嘆かれたように夜明けを待つかのごとき状況ですが、そこへ切り込んでいく NHK の青山さん持丸さん、そして東京新聞の木原さんたちは前例を超えるべく活動されていると感じました。じつは近々、木原さんに私たちの対話実践活動、とりわけオープンダイアログや当事者研究などについて取材頂く予定です。そう思って今朝目覚めたら、購読している東京新聞(9/24)に浦河べてるの家の向谷地生良さん取材した記事が木原さんの署名で載っていました。日精協山崎会長の記事へのレスポンスという形だったようです。精神科医療が中世のような状況でありつづける背景には当然、金のために入院や多剤服用などの犠牲になってきた患者がいるわけですから、その利権に群がる人々や循環構造を本来の意味での福祉の実践で変えてきたべてるの家の活動などは大いに参考になると思いました。

後半のわずかしら視聴できませんでしたが、えにしの会でしか見れない聴けないお話で大変興味深く引き込まれました。

白熱した議論で刺激になった！

話題提供いただきました皆さまのお話一つ一つが、私を感じる中でも、大変丁寧に活動されている内容として伝わりました。今後もより深め、さらに前列を超え、創っていく…まだ完成されていないお話であることに、私の日頃の学びや活動に対する励みにもなりました。貴重な機会をいただきまして、有難うございました。

日本の精神科医療の問題に長年、また最先端で切り込んでおられる方々の思いや考え、またボランティアにできること、政治家にできることという視点、この問題を考える上で最もふさわしい顔ぶれ、そして内容だったと思います。とても刺激になり、学びになり、ヒントがもらえ、励みにもなりました。

盛りだくさんの内容でした。参加されている方も、当事者のかたが結構いらして。裏方でしたので、録画を、後日じっくり拝見したいと思っています。

いつも前例を超える、前例を作る実践者を登壇させていただくので、テーマそのものです

後半の精神科病院のセッションのみの参加でしたが、媒体毎の特性を踏まえた調査報道の成果を伺うことができました。

新聞やネットでは得られない情報に触れることができたから。

毎回そうですが、踏み込まなければならない社会福祉課題に取り組んでいるから。

臨場感と迫力があつた。現場性の重要性。

普段接すること、聞くことのできない体験談を含めてお聞きすることができたこと。

日本人として生まれ、幸いにして高等教育を受けた人間が一番怯んでしまうであろう「前例がありません」という壁。まさにそれをぶっこわす痛快な内容であったと思います。

最高のスタッフがそろっていた。